

平成 25 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2013年4月～2014年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただきますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 彦根市立城西小学校

種別 保育園・幼稚園 小学校 小中一貫教育
 中学校 高等学校 中等教育学校
 教員養成 技術/職業教育
 その他 ()

住所 〒522-0064
滋賀県彦根市本町三丁目3番22号

E-mail : jyosei@mx.hikone.ed.jp

Website : _____

児童生徒数：男子 217 名 女子 178 名 合計 395 名
 児童・生徒の年齢 6歳～12歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ()

4. 活動内容

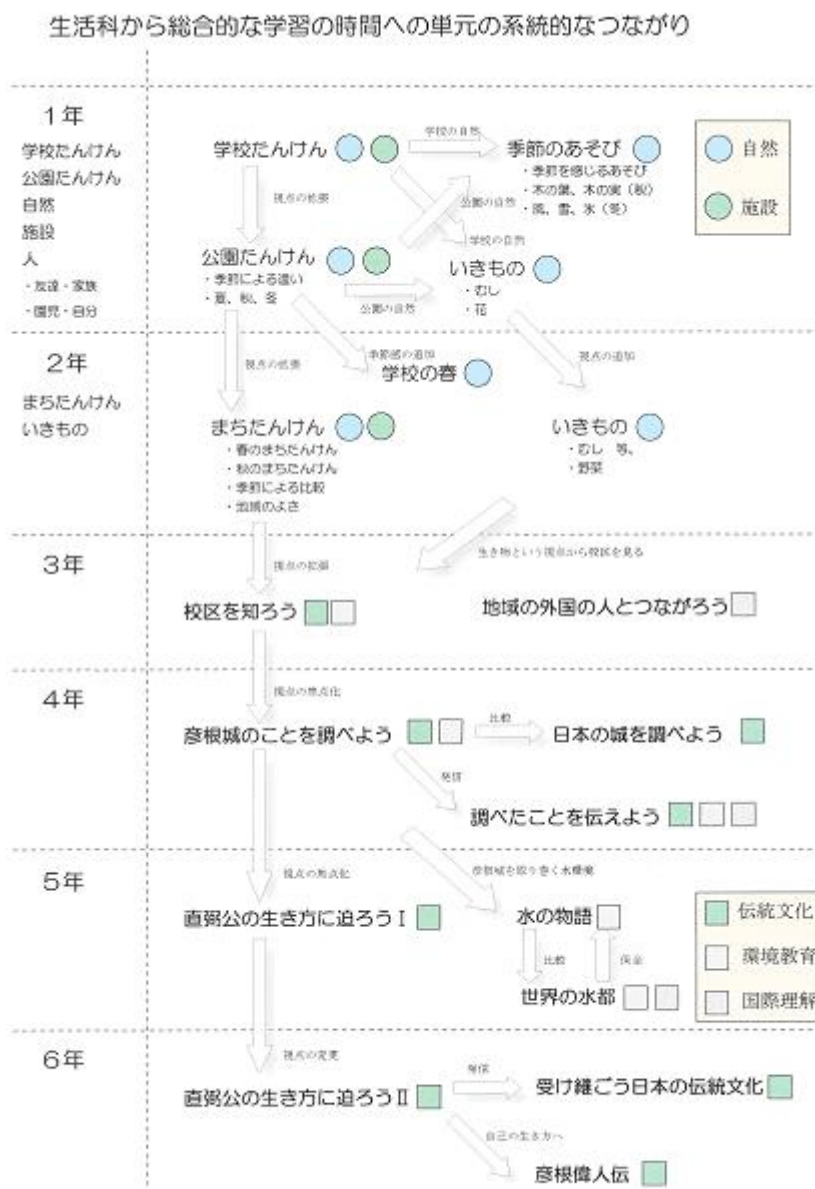
(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

※当報告書についてはユネスコスクールホームページに掲載するため、活動内容につ

いては、添付資料ではなく本報告書にご記入願います。

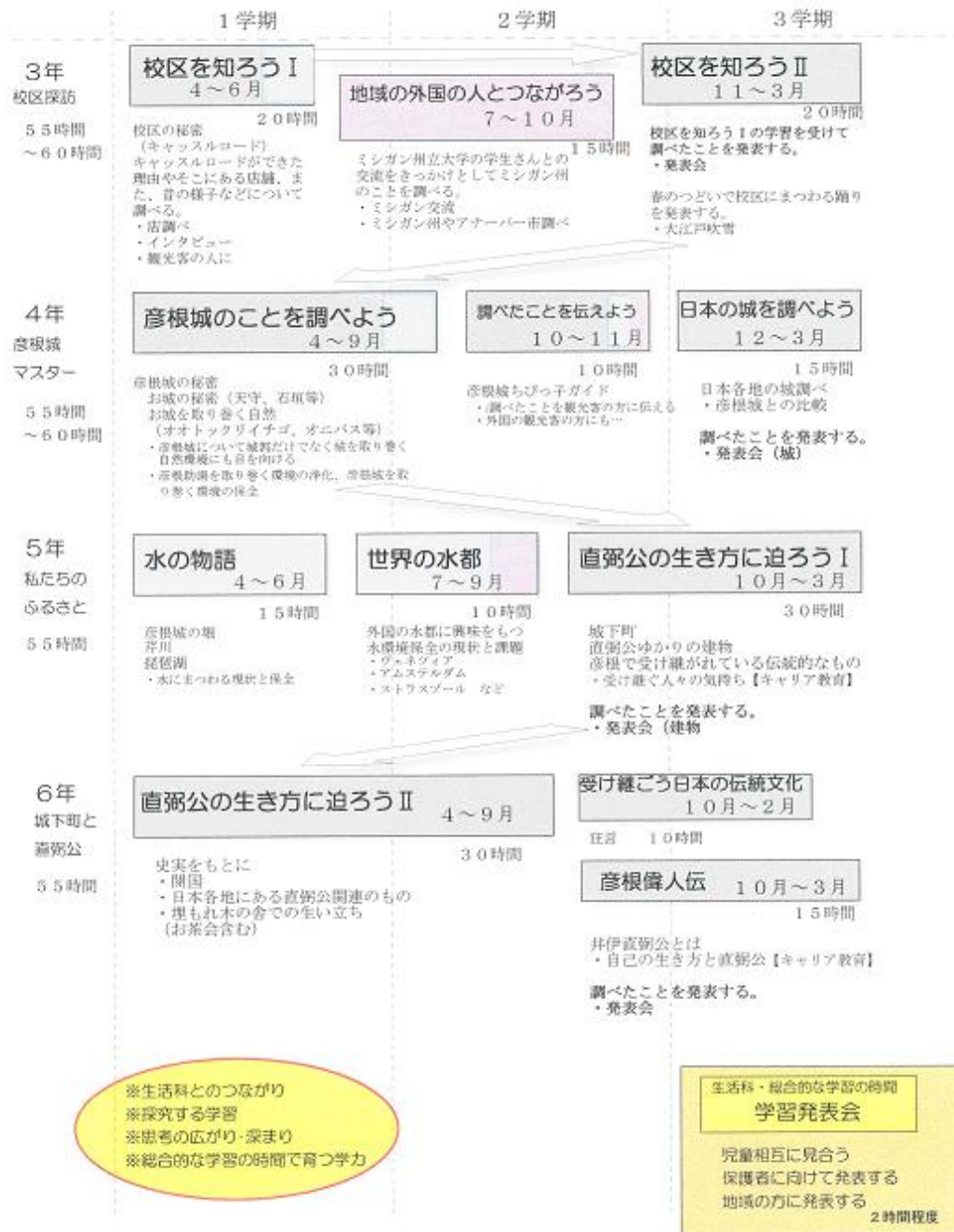
①生活科および総合的な学習の時間の学習内容の精選・見直しと、伝統文化・環境教育・国際理解の3つの視点からの系統性を勘案した、ESDカレンダーの作成

伝統文化・自然環境・国際理解という観点からみた、「生活科から総合的な学習の時間への単元の系統的なつながり」について、概略を整理した。ESDカレンダーを整理する際の参考となるように考えた。



総合的な学習の時間の単元のつながりを単元の大まかな内容を踏まえて整理したもの。3つの視点のそれぞれのつながりを意識した授業展開ができるようにするために提示した。

総合的な学習の時間



ESDカレンダーの例(6年生のESDカレンダー)

平成25年度に作成した試案である。この試案をもとに26年度に実践し、さらに修正加筆する。

教科領域	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
国語		よくぞ、わたしたちの命	伝説文化を学			とらばの歩む北へ	平和について考える			伝えられてきたもの		
社会		今に伝わる伝説文化					長く続いた戦争と人々の暮らし			わたしたちの生活と伝説	日本とつながりの深い国	
算数												
理科	ものが変化するとき	動物のつくりとからだ	土や動物の体のつくりとはたらき	生き物どうしがつながり		水環境の性質				電機と電気の関係	自然とどう生きる	
総合	彦根偉人伝① ～井伊直弼の生き方に迫ろう～			彦根偉人伝② ～直弼の世界に学ぶ～			受け継ごう日本の伝統文化 ～伝えよう日本の伝統文化～					
特別活動						城山ウォークラリー						
道徳						千年の玉をつくる	太平洋の架け橋に	百鬼夜行のバス	祭と盆	思いを育て		
音楽										世界の音楽に親しもう		
図画工作		キナックス600の制作										
体育												
家庭						思いを形に生活に役立つ物 日本の伝統						

伝統文化… 環境教育… 国際理解…

総合的な学習の時間 第6学年 指導計画

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
単元名「彦根偉人伝① ～井伊直弼の生き方に迫ろう～」 【おらい】 地域の偉人・井伊直弼に関心をもち、直弼公に関わる事柄について調べることを通して、その人物像を探ることができる。 【課題の設定】 ○彦根の偉人について、取材活動や友達との交流から、彦根の偉人である井伊直弼に対する興味・関心を高め、自分のテーマを設定する。 【情報の収集】 ○直弼の人物や業績について、取材活動や書物、インターネットなどを活用して、自分のテーマにそって調べる。 【整理・分析】 ○調べたことを整理し、新聞やパンフレット、すごろくなどでまとめる。 【まとめ・表現】 ○「井伊直弼」交流会を開き、自分なりにわかった直弼像について発表する。 ○井伊直弼の生き方と自分自身の日々の生き方を際らし合わせて、次に生かそうとする。 【地域人材・関係機関】 ○彦根城博物館				単元名「彦根偉人伝② ～直弼の世界に学ぶ～」 【おらい】 彦根の偉人・井伊直弼が大切にしたい「心の修行」「一層一会」の心の世界に触れ、直弼が大切にしてきた理由や、そのよさについて感じ取ることができる。 【課題の設定】 ○今まで学習内容から、自分がとらえた井伊直弼の人物像を振り返り、課題設定する。 【情報の収集】 ○地域での取材活動、書物、インターネットなどを活用して、自分のテーマにそって調べる。 【整理・分析】 ○友達との交流から、井伊直弼の心に近づく方法を話し合う。 ○湖東焼きや茶道について、自分の視点でゲストティーチャーに質問する。 【まとめ・表現】 ○自分の調べたことや体験して感じたことを伝えるために、図やイラスト、写真などを生かして、レポート形式で分かりやすくまとめることができる。				単元名「彦根偉人伝③ ～伝えよう日本の伝統文化～」 【おらい】 井伊直弼が大切にしたい日常の世界の体験を通じて日本の伝統文化の世界に触れ、直弼が大切にしてきた理由や、そのよさについて感じ取ることができる。 【課題の設定】 ○今まで学習内容から、自分がとらえた井伊直弼の世界観を振り返り課題設定する。 【情報の収集】 ○地域での取材活動、書物、インターネットなどを活用して、自分のテーマにそって調べる。 【整理・分析】 ○友達との交流から、井伊直弼の心に近づく方法を話し合う。 ○匠について、自分の視点でゲストティーチャーに質問する。 【まとめ・表現】 ○自分の調べたことや体験して感じたことをまとめ、「直弼論文」を書くことができる。			
【地域人材・関係機関】 ○彦根城博物館				【地域人材・関係機関】 ○湖東焼き 中川先生 ○お茶 外海先生				【地域人材・関係機関】 ○彦根伊呂波会（代表：北橋さん）			

上はESDカレンダー、下はESDカレンダーに連動する総合的な学習の時間の計画である。総合的な学習の時間の計画は年度当初のものであり、次年度に向けて修正中である。

②生活科・総合的な学習の時間を中心とした学習の実践

伝統文化

1年 季節のあそびの発展として昔の遊びを体験し、昔から伝わる遊び

- のおもしろさを体感できる取組を行った。
- 2年 「町たんけん」を通して、彦根城を中心とした校区のよさを感じる取組を行った。
- 3年 校区を知る活動を通して、昔の町並みを再生する取組が行われたキャッスルロードについて関心をもち、店調べやインタビューを通して、地域の人たちの町を大切にしようとする思いに触れ、校区のよさを感じた。
- 4年 彦根城について自分たちの観点で調べたり見学したりした。調べた城の特徴や工夫について、一般の観光客の人たちに分かりやすく説明するためにポスターにまとめるなどして、彦根城でガイドをした。このことから、彦根城により愛着をもち、彦根城を大切にしていこうとする心情を養った。
- 5年 武具制作に由来する仏壇産業の中の金箔押しなど、彦根で受け継がれている伝統的なものについて体験を通して調べ、伝統工芸のよさを感じるとともに、彦根に対する愛着を増した。
- 6年 井伊直弼公にまつわる、湖東焼きの体験、茶道の体験、狂言の発表などを通して、井伊直弼公の生き方について考え伝統文化を受け継いで行くことの大切さを感じた。

自然環境

- 1年 学校や地域の公園での遊びや自然物を使った遊びを通して、季節感を味わった。
- 2年 生き物となかよしになる活動や季節を変えての町探検を通して季節の違いによる身の回りの生き物や町の様子の変化を感じた。また、野菜作りを通して植物の変化や成長の様子に関心をもった。
- 3年 校区探検から、芹川の自然の変化に関心をもった。
(理科…季節による自然の変化を観察した。)
- 4年 彦根城を調べる際に、彦根城周辺の自然にも目を向けるようにした。
- 5年 地域の河川と琵琶湖について調べる活動を通して、琵琶湖の水環境を保全しようとするためには、地域の河川、さらには自分たちの家庭から出る排水に至るまでの環境への影響を考えることが大切であるということに気づいた。
- 6年 (理科…空気、水、栄養などの面から、地球上の生物とヒトとのつながりを考え、環境保全に対しての意識を高め、自分にできることを実践することをていげんとしてまとめた。)

国際理解

- 1, 2年 朝の時間を使って隔週に15分間ずつの英語活動を実施した。
- 1年 生活科の「冬をたのしもう」の学習で、日本の遊びと外国の遊びを取り上げ、メキシコ（保護者の中におられることから）の遊びについて知る機会をもった。その際、メキシコの様子についても教えていただき、日本との違いや共通点についても知った。
- 2年 外国の大学の学生さんとの交流の中で、日本の遊び歌を伝える活

動とアメリカの遊び歌を教えてもらう活動をした。外国にも遊び歌があることを知り、手遊びをしながらその遊び歌を楽しく歌うことができた。

3年 外国の大学の学生さんとの交流の中で、簡単な挨拶や自己紹介をすることができるようにして、交流に臨んだ。また、交流会ではカードゲームのルールを分かる英語を使って学生さんに自分たちから一生懸命説明することができた。

4年 彦根城のガイドをきっかけに、外国の観光客の人にもガイドができるように、挨拶や自己紹介、調べたことの英語での説明などを意欲的に尋ねたり練習したりしてガイドに臨んだ。

5, 6年 外国語活動を通して、英語に触れるとともに外国に関心を持ち、機会があれば進んで外国の人ともかかわろうとする。

6年 修学旅行で奈良に出かけ、奈良公園でウォークラリーをする際に、外国の観光客の人に英語で語りかけ、「どこの国から来られたか」「日本の文化の中で好きなことは何か」という問いかけをし、自ら外国の人にかかわる活動をした。

(2) 活動時間について (下記から選択して下さい。)

■ 通常の授業時間を使用 (総合的な学習の時間を含む)

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他 ()